

■■メールマガジン「静岡県防災」第10号■■

「『土砂災害から命を守ろう！』

～ 熱海市伊豆山地区土砂災害の教訓と経験から（後編）」

梅雨が明け、晴天が続いていますが7月～9月にかけての夏場は、突然の大雨や台風の襲来に注意が必要です。これまで7月は全国的に大きな水害が発生してきました。

昭和49年7月7日 七夕豪雨（静岡県全域で甚大な被害）

平成26年7月9日 南木曾町土石流災害

平成29年7月5日 九州北部豪雨

平成30年7月6日 西日本豪雨災害（静岡県等が広島県呉市を支援）

令和2年7月3日 球磨川水害

さて、前回の「地域の危険性を知る」に続き、今回は「避難のタイミング」がテーマです。

的確な避難のためには、どのような状況で、いつ行動するかが重要です。

避難のタイミングが生死を分けると言っても過言ではありません。

○降雨時は「土砂災害警戒情報」に要注意

大雨に関する情報として、気象台が発表する大雨警報等に加え、「土砂災害警戒情報」があります。

この情報は、大雨により土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに、県と気象台が共同で発表します。

市町長が避難指示を発令したり、住民が避難を行う際の重要な判断基準となります。

テレビやラジオ、インターネット、防災行政無線等で伝達されます。

「土砂災害警戒情報」が発表されたら、土砂災害の切迫度が高まっていると理解しましょう。

○避難指示で全員避難

お住まいの地域に「土砂災害警戒情報」が発表されたら、市町からの避難指示の発令に留意するとともに、避難指示が発令されていなくても自分がとるべき避難行動をとりましょう。

「立退き避難」が必要な場合は、近所の方々にも避難を呼びかけ、迅速に安全な場所（指定避難場所など日頃から決めておく）に避難しましょう。

高齢者など避難に時間を要する方は、「高齢者等避難」が発令されたときに（避難指示が発令される前段階で）、確実に避難を済ませましょう。

急な対応で、どうしても立退き避難が困難な場合は、次善の策として、最寄りの頑丈な建物の2階以上、それも難しい場合は、自宅内のより安全と思われる場所（2階以上、崖や傾斜地から離れた部屋など）に避難しましょう。

なお、建物の上層階への避難を「垂直避難」と言います。

早めの避難行動を開始し、土砂災害から命を守りましょう！